

会 議 録

会 議 の 名 称	平成26年度第1回弘前城跡本丸石垣発掘調査委員会
開 催 年 月 日	平成26年 8月21日 (木)
開 始 ・ 終 了 時 刻	14時00分 から 16時00分まで
開 催 場 所	弘前城本丸発掘現場
議 長 等 の 氏 名	関根達人 (弘前大学人文学部教授)
出 席 者	金森安孝、上條信彦、福井敏隆
欠 席 者	柴正敏
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	(公園緑地課) 課長兼弘前城整備活用推進室長・古川勝、課長補佐・小嶋修造、主幹・石川竜明、主査・横山幸男、主事・今野沙貴子 (記録) (文化財課) 埋蔵文化財係長・岩井浩介、主事・工藤麻衣
会 議 の 議 題	弘前城跡本丸石垣発掘調査について (1) 明治～大正の石垣修理範囲の確認 (2) 天守台石垣ヒラキの原因 (3) 盛土①～③の分布・堆積状況 (4) 本丸井戸跡周辺の状況
会 議 結 果	(1) 近代の石垣修理の痕跡を、人頭大の礫を多く含む白色粘土層の広がりとして検出した。今後、それをさらに細分化する。 (2) 天守台石垣のヒラキは、根石のズレに原因があるのではないか。もっと慎重に検討すること。 (3) 盛土①は、近代以降の土であろう。盛土①の堆積が薄い調査区西端と、近代の石垣修理の手が入っていない調査区北側では、近世遺構の残存している可能性が高い。 盛土②・盛土③とされている土は、それぞれ調査区の南側と北側で様相が異なってくる。分層を細分化し、それぞれの堆積範囲と新旧関係を把握すること。 (4) 井戸枠下の新しい土を除去すれば、その下に近世井戸の痕跡が残っている可能性が高い。井戸枠の近くに検出している溝跡も、近世の遺構なのではないか。
会 議 資 料 の 名 称	① 平成26年度第1回弘前城跡本丸発掘調査委員会 (案件要旨) ② 平成26年度発掘調査区平面図 (8月) ③ 土層断面図

会議内容

(発言者、
発言内容、
審議経過、
結論等)

(1) 明治～大正の石垣修理範囲の確認

(事務局) 近代の石垣修理の痕跡を、人頭大の礫を多く含む白色粘土層の広がりとして検出した。

(委員会) 白色粘土堆積範囲の南側と北側で、礫の混入の仕方など、様相が異なる。石垣修理の積み手の違いが表れているのではないかと。土を細分すること。

(2) 天守台石垣ヒラキの原因

(事務局) 天守台石垣のヒラキは、近代の石垣崩落範囲境界の延長なのではないかと予想されていたが、そうではなかった。ヒラキの延長線上で、近代の石垣修理痕である白色粘土層の落ち込みを確認している。粘土層が後に攪乱を受け、それが天守台石垣のヒラキの原因になっているものと考えられる。

(委員会) 天守台と白色粘土層の落ち込みの位置関係を考えると、粘土層が攪乱で掘削されたとは考えにくい。粘土層の落ち込みを埋める礫層は、近代の石垣修理に伴うものなのではないか。天守台石垣のヒラキは、根石のズレに原因があるように思うが、いずれにせよもっと慎重に検討するべきである。

(3) 盛土①～③の分布・堆積状況

(事務局) 調査区の西端に、慶長期の土端と思われる盛土③を検出している。その上に盛土①・②が、それぞれかなり厚く堆積している。盛土①上層からは、ガラスなど近現代の遺物が出た。

また、調査区北端では盛土①は確認されず、盛土②が露出している。慶長期の土端(盛土③)も、調査区北西隅に確認した。

(委員会) 盛土①は、近代以降の新しい土であろう。石垣の上から2石目までは、広範囲に近代の積み直しが入っている。近代の石垣修理にも時期差を確認できるのか、検討すること。盛土①は、石垣に近づくほど厚く堆積しているため、堆積の薄い西側の方に近世の遺構が残っている可能性がある。また、調査区北側の、近代の石垣修理が入っていない範囲内においても、土堀跡など近世の遺構を検出する可能性がある。

調査区北西隅に見られる慶長期の土端の土は、従来の盛土③とは区別して捉えるべきだ。盛土②とされる黒色土も、調査区南側と北側で様相が異なる。土をさらに細かく分類し、それぞれの堆積範囲や新旧関係を把握すること。

	<p>(4) 本丸井戸跡周辺の状況</p> <p>(事務局) 井戸枠の下に、コンクリート片が入り込んでいる。おそらく昭和 34 年の本丸整備の際に井戸枠が動かされ、下部で盛土等の土木工事が行われているものと思われる。</p> <p>井戸の覆屋雨落ちと思われる瓦列は、現代の層での検出である。写真によると、昭和期まで覆屋が設けられていた。瓦列の下に、溝状の掘り込みを検出している。</p> <p>(委員会) 井戸枠下の新しい土を除去すれば、その下に近世の井戸掘形が残っている可能性が高い。</p> <p>井戸枠の下に入り込んでいるコンクリート片と、瓦列の新旧関係を確認すること。瓦列の下の溝跡は、近世の遺構なのではないか。この溝跡は、石垣の蛇口に続く排水溝である可能性もある。</p> <p>瓦列を構成する瓦の産地・流通ルートの特定期も、課題のひとつであろう。</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開、非公開…公開 ・傍聴者数…5名（青森テレビ・NHK・東奥日報・陸奥新報）